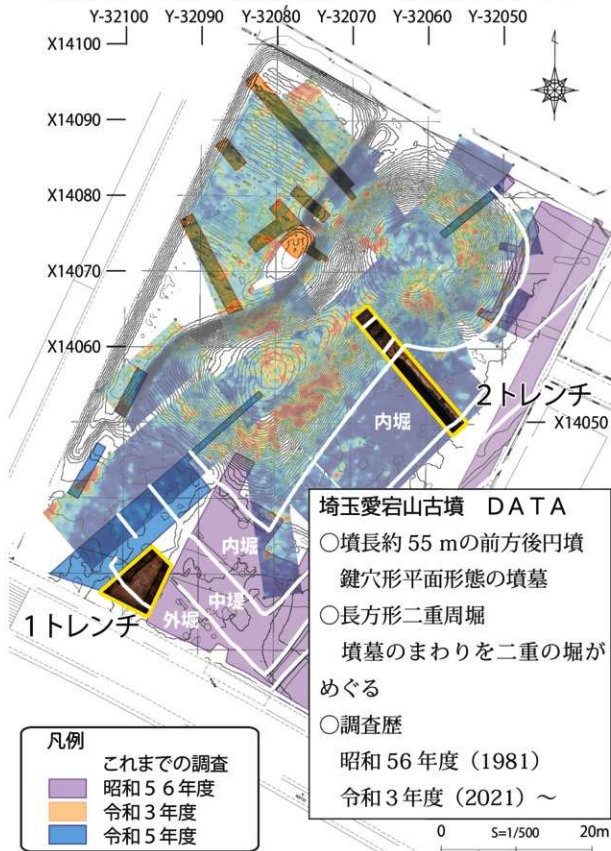
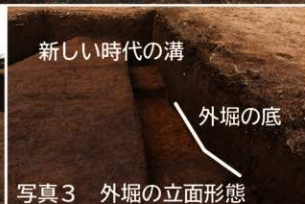
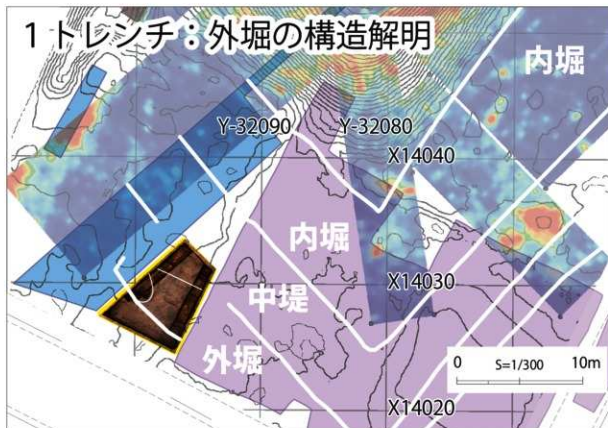
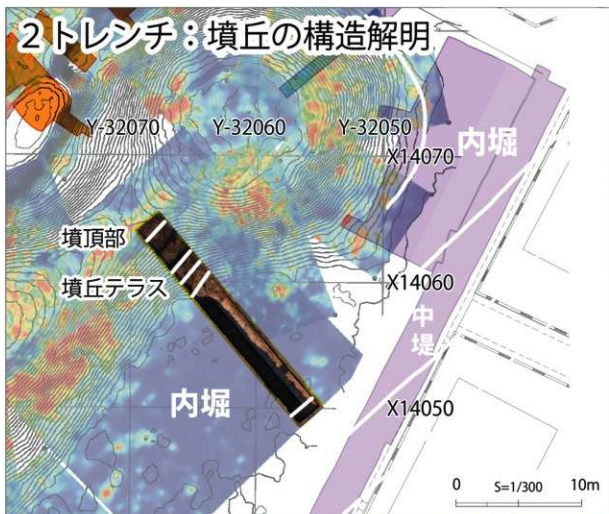


# 令和6年度 特別史跡埼玉古墳群 愛宕山古墳発掘調査 現地見学会



本誌に掲載する図は、令和3年度に継続した「特別史跡埼玉古墳群の学術調査に関する協定書」に基づく成果として、早稲田大学東アジア地域・シルクロード考古学研究所が発行する『早稲田大学東アジア地域・シルクロード考古学研究所 2022「埼玉古墳群」 埼玉愛宕山古墳の調査・研究報告』(早稲田大学東アジア地域・シルクロード考古学研究所 デジタル調査報告 第4冊) p.12に掲載される図12を下図として作成している。調査地図については当該の調査報告を参照した。





## 調査成果と課題

### ◆ 成果

#### ① 古墳の構造解明へ前進

⇒ 古墳の構造の鍵となる立体的な情報を取得できました。具体的には、墳丘の「墳頂」から「墳裾」へ至る高さ<sup>ふんちよう</sup>と傾斜<sup>ふんすそ</sup>が初めて明らかになりました。また、墳丘の周囲をめぐる「内堀」・「中堤」・「外堀」の付属施設の深さ・幅・傾斜も明らかになり、全体の復元に必要な情報が蓄積できました。

#### ② 古墳東側で須恵器多数みつける

⇒ 古墳の墳丘と内堀から多種類の須恵器がみつかりました。出土状況から、「墳丘テラス」と呼ばれる平坦な面に須恵器が置かれていた可能性が高まりました。埋葬施設を除けば、墳丘東側でまとまった須恵器がみつかるのは埼玉古墳群では初の事例となります。

#### ③ 古墳東側で多種類の形象埴輪配置か

⇒ 内堀の墳丘側と中堤側でそれぞれ多種類の形象埴輪がみつかりました。とくに中堤東側の形象埴輪は過去の調査でも確認されていたため、その様相の解明が期待されます。形象埴輪配置が古墳西側に偏る埼玉古墳群のなかでは、愛宕山古墳の形象埴輪の出土状況は非常に珍しい現象といえます。

### ◆ 課題

#### ① 後円部の構造と埋葬施設が不明

⇒ 今後の調査によって後円部の構造が把握できる情報を取得する可能性は残されています。

#### ② 古墳の築造時期が不明

⇒ 出土遺物の詳細な調査研究による解明を目指しています。

※解明後は報告書で公表、展示・講座で活用する予定です。